



荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間 北前船寄港地・船主集落

「諸寄港」まち歩きマップ

雪の白浜、風待ち・潮待ち港、諸寄

ええとこだけえ ゆっくり見て行きなれなあ!



千々見山展望台
4月登山道の両脇に桜並木が見事。浜坂や諸寄の市街地が渡せる。



氏神 八坂神社
毎年10月15日か例祭。神社の森(社叢)か町の天然記念物。杉の巨木・参道の桜が見事。



龍満寺 難波した船乗等を供養した寺馬北の鬼道場と恐れられた曹洞宗の寺。玄楼和尚が建てた龍宮造りの山門が目印。



篠原無然生誕百年記念碑
聖人と呼ばれた社会教育者
明治22年(1889) ~大正13年(1924)

愛宕神社
旧菅屋坂 昔この道を通って浜坂に行き来していた。

諸寄墓苑
前田純孝墓 相撲取塚
日浦政吉 鶴澤友助 碑

至浜坂
諸寄・庚申堂
毎年5月第二日曜日に本尊背面金剛像が御開帳される。

城山地展望台・遊歩道
前田純孝
悲しくも新しい情感に満ちた明治の歌人
明治13年(1880)~明治44年(1911)

久邇宮多嘉王殿下 遊幸地別荘跡
和船係留杭跡
北前船をつないだ杭の跡が残る。

雪の白浜地区
諸寄から様々な人や産物が集まることから諸寄(もろよせ)となったと言われている。

諸寄駅
昭和6年久邇宮が遊覧に来られるために造られた仮設駅。昭和13年一般駅に昇格。4月桜の名所

一燈園西田天香揮毫の篠原無然顕彰碑がある

明治44年山陰線開通当時のレンガ造り

雪の白浜記念碑

篠原無然生誕之地碑

細い路地が入り組み、真っ直ぐ行けば、浜に出る。

沖から諸寄港に入ってくる波が軋を掻くことから諸寄の七不思議「諸寄の一つ波」と言われた。

諸寄の砂浜は、雪の白浜と呼ばれ、平安時代から和歌にも詠まれた景勝地。

塩谷トンネル 至浜坂港

諸寄基幹集落センター資料室
諸寄の先人や歴史資料が展示されている。水曜日休館日 ※要事前連絡 (0796-82-5233)

八坂神社社務所
北前船の船主が寄進した船絵馬がある。要事前連絡 0796-82-0503

廻船問屋道盛家母屋

廻船問屋東藤田母屋

為世永神社例祭
毎年7月14・15日の祭礼のとき、御旅所が建てられ、御神輿渡御・魁鬨獅子舞が奉納される。

聖衆寺
浜坂願願寺の末寺。境内には見地上人名号碑がある。

為世永神社
毎年7月14・15日に祭礼が行なわれる。境内には、北前船で運ばれてきた出雲石で造られている全国の船主たちが寄進した玉垣や灯籠・狛犬がある。

谷角日沙春生誕百年記念碑
谷角日沙春: 異色の日本画家
明治26年(1893) ~昭和46年(1971)

廻船問屋中藤田母屋
日本画家 藤田威生家

山根町(廻船問屋)地区

相撲取塚
村に疫病が入って来ないように建てられた

御神輿堂

和船係留杭跡
北前船をつないだ杭の跡が残る。

恵比須神社

北前船停泊(旧諸寄港)地区

諸寄港・風待ち港

諸寄港は、江戸時代から北前船の風待ち・潮待ち港として栄え、諸寄港からは海産物や諸寄砥石などが船積みされました。また、船の出入りとともに人や物が行き交い、全国の多くの文化が混流し、諸寄地域をはじめ周辺地域の経済的發展に大きな影響を与えました。

しかし、鉄道の開通(M45年)によって、物流手段が大きく変わり、諸寄の繁栄も北前船の衰退と同じ道をたどりました。諸寄地区内には、北前船に関する史跡や航路図などが数多く残されています。特に、為世永神社は、航海安全と商売繁盛を祈願した北前船の船主や船乗りの信仰・崇拝の篤い神社です。境内の灯籠と玉垣は、明治17年(1884)改修工事に合わせて、全国の船主等から寄付を募って建てられたもので、陸奥・越後・若狭・因幡・肥前・周防・大阪・下野などの北前船関係者(寄港者)の住所と氏名が刻まれています。

また、北前船によって諸寄港にもたらされた文化は、人々の新たな文化創造にも影響を与え、明治の歌人前田純孝や異色の日本画家谷角日沙春、社会教育家篠原無然、日本画家で障がい者の社会参加を支援した藤田威など、多くの先人が出ています。



下ノ町(廻船問屋)地区界隈

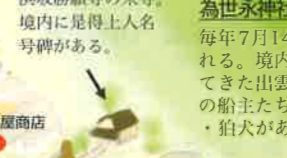


川中町・山根町(船宿・廻船問屋)地区界隈

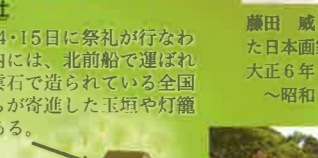
《モデルコース》

- [所要時間: 2時間30分]
- 諸寄漁港セリ場駐車場
↓(徒歩:5分)
- 川中町(船宿)地区
↓(徒歩:3分)
- 為世永神社(玉垣・灯籠10分)
↓(徒歩:2分)
- 山根町(廻船問屋)地区
↓(徒歩:5分)
- 日和山(和船係留杭跡)
↓(徒歩:10分)
- 下ノ町(廻船問屋)地区
↓(徒歩:5分)
- 八坂神社社務所(船絵馬10分)
↓(徒歩:3分)
- 諸寄基幹集落センター(30分)
↓(徒歩:8分)
- 諸谷山龍満寺
↓(徒歩:1分)
- J R 諸寄駅
↓(徒歩:7分)
- 諸寄漁港セリ場駐車場
↓(車:3分)
- 城山園地展望台・駐車場(10分)

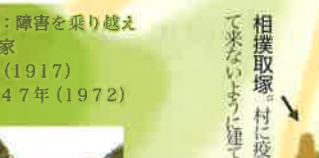
※JR利用の場合は、逆コースがおすすめ。



聖衆寺



為世永神社



藤田 威: 障書を乗り越えた日本画家
大正6年(1917) ~昭和47年(1972)



廻船問屋中藤田母屋
日本画家 藤田威生家



日和山・常夜燈跡
北前船が往来した当時、灯りが灯された。

但馬なる 雪の白浜 もろよせに
思ひしものを 人のとや見ん
(中六帖)

見渡せば 沖に綿巻
千歳松 波諸寄に雪の白浜
(西行法師)
※京極豊隆藩主の歌という説もある。

心して もろよせ川の 水ならば
ふら瀬もわかす おもひわたらん
(懐中抄)

浜は 有度浜 長浜 吹上の浜
打出の浜 もろよせの浜
千里の浜 広心思ひやゆる
(枕草子)

北前船寄港地「諸寄港」
まちな歩きミニ写真館

中世・戦国期の諸寄港

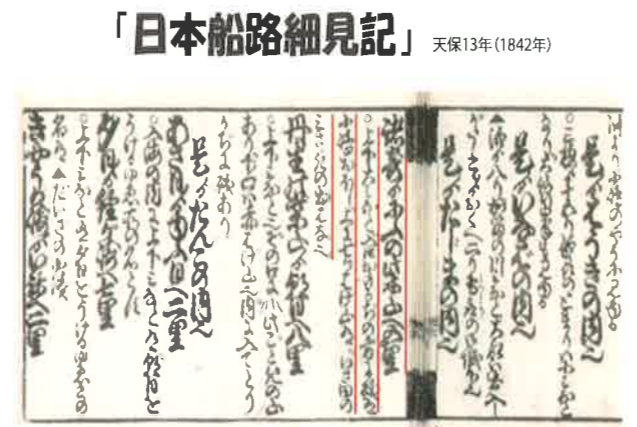


中世の諸寄港には、因幡から但馬の海上戦略の要所として、戦国期の武将 塩冶氏の居城「芦屋城」が築かれた。

北前船航路と諸寄港



記録に見る諸寄港



諸寄港は、古地図や航路誌にも記載されている古い港である。諸寄港：「諸寄りにふの柴山五里。上下大みなど。入口おもかじの方に磯有。小嶋おほし。丹生柴山より朝日へ八里」

「雪の白浜」と諸寄港

枕羊子 作者：清少納言・成立：1002年「ろ」
「浜は」
有度の浜 吹上の浜 長浜 打出の浜
諸寄の浜
千里の浜 広う思ひやらる」



有度の浜・駿河国安倍郡
吹上の浜・紀伊国名草郡
長浜・志摩国英虞郡
打出の浜・近江国滋賀郡
諸寄の浜・但馬国二方郡
千里の浜・紀伊国日高郡

諸寄港の取引商品

「動く総合商社」と呼ばれた「北前船」。諸寄港からは、砥石や飲料水が積出され、出雲石・笏谷石・石州瓦が荷下ろしされた。

【積出し商品】



「諸寄砥石」



航海中の飲料水を汲んだ「笹屋の井戸」

【荷下し商品】



「出雲石(島根県)」



「笏谷石 (福井県)」



「石州瓦 (島根県)」

諸寄港に残る北前船難破船記録



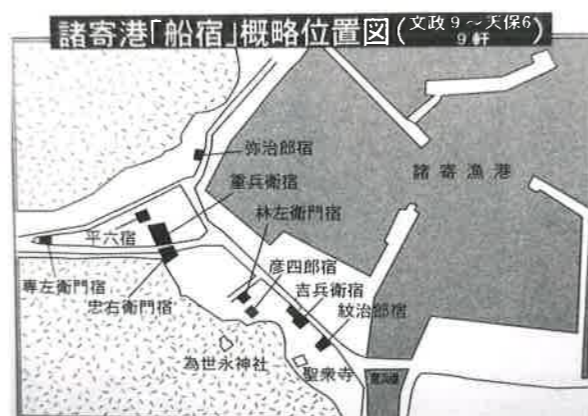
天明3年(1783)から明治11年(1878)の95年間に93件の難波記録が残されている。

龍満寺の名僧たち

- 江戸後期 禅の四天王
- 象山問厚和尚 牛問厚(龍満寺)
 - 玄楼奥龍和尚 狼玄楼(龍満寺)
 - 靈潭魯龍和尚 獅子靈潭(龍満寺)
 - 風外本高和尚 画僧:たこ風外
 - 寂潭俊龍和尚 彦根清凉寺・江戸豪徳寺住職
 - 虎仏通(摂津仏通寺)

龍満寺は、江戸時代「馬北(北但馬)の鬼道場」として代々高僧を輩出している。諸寄沖で難破した際、亡くなった乗組員を供養した記録が残されている。

諸寄港の船宿跡



諸寄港には、為世永神社の下、川中町・山根町内に九軒の船宿があったことが知られている。

諸寄港の日和山



ありし日の日和山。「常夜灯(常燈)」。現在、日和山には、「常燈」と「諸廻船問屋中」と刻まれた常夜灯の一部が残る。

北前船から鉄道へ

諸寄駅の開業



昭和13年「諸寄駅」開業式典

諸寄港と久邇宮家



「久邇宮家」中藤田家前歓迎式典。浜までムシロを引いてお迎えされた。諸寄港の中藤田家・東藤田家には、久邇宮家関係の書画が残されている。



塩谷海岸にあった「久邇宮家別荘」。建設にあたっては、廻船問屋「東藤田家」が支援した。昭和33年浜坂地区に移築された。

諸寄の地形と北前船



天まで続く棚田。耕作地の少ない諸寄、必然的に漁業・北前船で栄えた。その裏には、航海中の家を守った女性の存在が大きい。

荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間 北前船寄港地・船主集落

～「諸寄港」まち歩きマップ～

雪の白浜、風待ち・潮待ち港、諸寄。

ええとこだけえ、ゆっくり見て行きなれなあ。



諸寄港は、「枕草子」「古今六帖」「蜻蛉日記」など、古くから和歌にも詠まれた名勝地。そして、江戸時代には北前船の風待ち、潮待ち港。北前船とともに「人」「物」が行き交い、全国の多くの文化が混流し、地域の人々にも大きな影響を与えた。そのため諸寄港地区からは、多くの文化人や画家が出している。

為世永神社・龍満寺、廻船問屋宅などが、北前船の「風待ち港」として栄えた往時の隆盛を今に伝えている。所要時間二時間三〇分程度の散策コース。探せば、自分だけのインスタ映えスポットが随所にある港町。

廻船問屋「東藤田邸」は、休憩所として一般公開されている。蔵を利用した休憩室でお茶を飲みながら、荒波を越えた男たちの夢を紡いだ諸寄の歴史を当主から話を聞くのもいい。

また、お腹が空いたら新温泉町の食文化、諸寄特産の「ちくわ」を出来れば「あごちくわ」を味わいながらの散策もいいかもしれない。

坂道の先には？

北前船が運んだ石州瓦の家並み

幸せを呼ぶ「麒麟」に会える。

寄の屋号。北前船係者か？屋号をながらの策も楽しい。

廻船問屋東藤田邸茶を飲みながら休憩もできる。

歩き疲れたら、大入りプレイク。大人気の湯合は、時間差で。

日和山下堤防から見る、諸寄港も絶景。何故、諸寄港が北前船寄港地になったか、謎が解ける。北前船係留杭跡などがある。

諸寄港が一望。日本海に沈む夕日が絶景。おすすめインスタ映えスポット。

荒波を越えた男たちの夢、往古を偲び、俳句でも一句。

雪の白浜、砂浜を裸足で歩いて、日本海を体感。

早朝、威勢のいいセリも見学できる。土曜は休み。

諸寄出身の文化人や画家、諸寄の歴史が良く分かる。ここからスタートするのもいいかもしれない。

難破した北前船の乗組員を供養した寺。竜宮形式の山門が珍しい。境内に子ども園。園児が元気な挨拶をしてくれます。

諸寄地区のもう一つの神社。杉の巨木が歴史を感じさせる。

梅も良いけど時には旅先からハガキで連絡も

M14年創業の海産物店。北前船食文化「へしこ」。地元海産物を諸寄土産に。海産物店は、他にもありますので、ぜひ一つ。

夏季は、ソフトクリームもあるよ。

ちくわを食べながら散策。あごちくわは品切れに注意！

塩漬、コロッケ、焼き鳥が旨い。

郵便局前、祠が目印

喫茶店「待夢」0796-82-0526 不定休

海産物「山長商店」0796-82-4511 定休日(土曜)

浦木商店 0796-82-1559 定休日(日曜)

ちくわ「森甚商店」0796-82-1216 年中無休

JR諸寄駅

諸寄郵便局

諸寄地区の氏神 八坂神社

龍満寺

廻船問屋中藤田家母屋(非公開) 毎年7/14.15 限定の祭

急な石段 足の踏み外しに注意

為世永神社例祭(麒麟獅子舞)

為世永神社(玉垣・灯笼)

道盛家玄関脇の彫刻も素晴らしい。

倉庫群が往時の隆盛を忍ばせる

八坂神社社務所(船絵馬)

彩色鮮やかな船絵馬が見られる。

諸寄郵便局

諸寄地区の氏神 八坂神社

諸寄地区のもう一つの神社。杉の巨木が歴史を感じさせる。

梅も良いけど時には旅先からハガキで連絡も

《モデルコース》

- [所要時間：2時間30分]
- ① 諸寄漁港セリ場駐車場 (徒歩：5分)
 - ② 川中町(船宿)地区 (徒歩：3分)
 - ③ 為世永神社(玉垣他 10分) (徒歩：2分)
 - ④⑤ 山根町(廻船問屋)地区 (徒歩：5分)
 - ⑥ 日和山(和船係留杭跡) (徒歩：10分)
 - ⑦⑧⑨ 下ノ町(廻船問屋)地区 (徒歩：5分)
 - ⑩ 八坂神社社務所(船絵馬 10分) (徒歩：3分)
 - ⑪ 諸寄基幹集落センター (30分)
 - ⑫ 氏神 八坂神社 (10分) (徒歩：6分)
 - ⑬ 諸寄郵便局 (徒歩：2分)
 - ⑭ 山陰線開通当時のレンガ高架ガード (徒歩：1分)
 - ⑮ 諸谷山 龍満寺 (徒歩：1分)
 - ⑯ JR 諸寄駅 (徒歩：7分)
 - ⑰⑱ 諸寄漁港セリ場駐車場 (徒歩：7分)
- ※JR利用の場合は、逆コースがおすすめ。

《オプション・おすすめポイント》

- ⑱ 城山園地展望台 (車：3分)

時間のある方は、宿泊して、ゆっくり見ていきなれなあ。

発行/新温泉町北前船日本遺産活用推進協議会設立会 新温泉町教育委員会・浜坂先人記念館内
 〒669-6702 兵庫県美方郡新温泉町浜坂 1208 TEL/FAX 0796-82-4490
 宿泊等の問合せ先： 浜坂観光協会 ☎0796-82-4580 〒669-6701 兵庫県美方郡新温泉町芦屋 853-1

北前船寄港地・船主集落

「諸寄港」まち歩き 解説ガイド

● 日本遺産とは

地域の歴史的魅力や特色を通して、わが国の文化や伝統を語る「ストーリー」を文化庁が認定する制度。平成二十七年に創設。※国は、二〇二〇年までに、一〇〇件程度を認定する予定。

【日本遺産の認定基準】

- ①地域の歴史的特徴・特色を示すもので、わが国の魅力を伝えるもの。
- ②日本遺産を活かした将来像（ビジョン）が示されていること。
- ③日本遺産を通じた地域活性化の推進体制が整備されていること。

● 「北前船寄港地・船主集落」

【テーマ】

荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間
北前船寄港地・船主集落
※平成三〇年度三八市町を認定

【ストーリー概要】

日本海や瀬戸内海沿岸には、山を風景の一部に取り込む港町が点々とみられる。そこには、港に通じる小路が随所に走り、通りには広大な商家や豪壮な船主屋敷が建っている。また社寺には奉納された絵馬や模型が残り、京など遠方に起源がある祭礼が行われ、節回しの似た民謡が詠われている。



● 諸寄港地の概要

諸寄港地は、兵庫県の北西部に位置し、日本海に面し、海と山を包含する豊かな自然環境の中、海岸部は世界ジオパークネットワーク「山陰海岸ジオパーク」に指定されている。

古くから因幡（鳥取市）の文化を色濃く影響を受けている。

● 古典にみる諸寄港「雪の白浜」

諸寄港を流れる大柄川の上流は、花崗岩質のため、諸寄の浜は白く輝き、古くから「雪の白浜」として名高く、古典・和歌などに多く詠まれている。「枕草子」には、「浜は有度の浜 吹上の浜、長浜 打出の浜 諸寄の浜 千里の浜 広う思ひやらる」と、「古今和歌六帖」や「蜻蛉日記」にも詠われている。

また諸寄港には、昭和初期まで諸寄塩谷海岸には、久邇宮家の避暑別荘も建っていた。

● 諸寄港

諸寄港は、江戸時代から北前船の上り下りの風待ち・潮待ち港として栄え、諸寄港からは、海産物や諸寄砥石、飲料水などが船積みされた。

諸寄港は、北前船とともに「人」「物」が行き交い、全国の多くの文化が入り込んで、地域の人々にも大きな影響を与えた。

特に諸寄地区からは、明治の歌人前田純孝や異色の日本画家谷角日沙春、社会教育家篠原無然、日本画家で障がい者教育を支援した藤田威、曹洞宗の名僧玄楼和尚など、近隣には稀にみる多くの文化人や画家を輩出してきている。

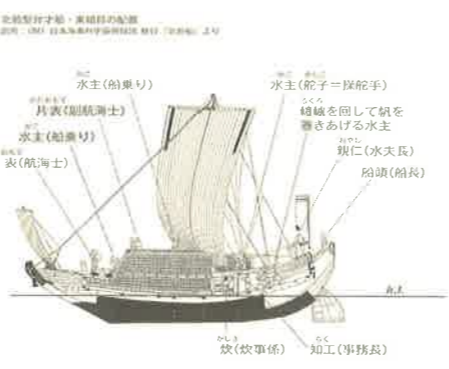


● 諸寄港（湊）

諸寄港は、古地図や航路誌にも記載されている古い港である。「皇国総海岸図（安政二年（一八五）刊）」に「諸寄湊は、湊口が広く奥行きもあり、海底も深い、大きな船が百艘余りも入津出来る。上り船、下り船共に利用できる大きな港である。港の中に入れば、風波の心配はなく、沖撃もぎ出来る。網代より北西方向、順風で諸寄湊」と記されている。

● 北前船（きたまえぶね）

「北前船」は、もともと摂津や瀬戸内の人たちが日本海方面から下関を経由して、瀬戸内・大坂へ廻漕してくる廻船を「北前船」と呼ぶようになった。



● 日和山の常夜灯

為世永神社の西に「日和山」がある。文字通り日和を見る標高四〇〇メートルの山である。昔、北前船の乗組員たちが日和を見た日和山は、現在「諸寄港日和山灯台」「船害航照射灯」「石ノ前照射灯」が設置されており、沖を航行する船舶の道しるべとなっている。現在、日和山には、「常燈」と「諸廻船問屋中」と刻まれた常夜灯の一部が残る。



● 諸寄港（湊）

為世永神社の創建年や由緒は不明であるが、寛政（一七八九〜一八〇）年間に再建した棟札があるといわれている。明治二十六（一八九三）の杜寺再明帳には「伊弉諾尊・伊弉冉尊・塩土翁尊」となっている。塩土翁尊は、海幸彦・山幸彦神話

に登場する塩路・海路をつかさどる海の神である。

明治十七年に玉垣等の改修工事が行われており、「為世永神社御玉垣寄付記」が残されている。



● 為世永神社・玉垣・灯籠・狛犬

為世永神社の階段の両脇に一对の灯籠と境内を囲むように玉垣がある。地元や諸国の廻船問屋の寄進によるものである。「防州 平生浜水場港 松井首三郎」「明治一八（一八五）六月吉日」と刻まれており、境内の灯籠、玉垣、狛犬は、この時期に造営されたことがわかる。近隣では因幡、遠くは大崎・陸奥・但馬・伯州・越前・讃州などの玉垣が残っている。



狛犬の形は、出雲型の狛犬で、日本海沿岸地域には、出雲産来待石の狛犬が多く奉納されている。諸寄地区には、北前船によって運ばれた石州瓦で葺かれた廻船問屋や福井県産の笏笏石の基礎石などの家を見ることが出来る。

● 為世永神社・例祭

為世永神社の例祭日は、毎年七月一三日〜一五日に行われる。例祭には、麒麟獅子舞・神・山車（鉦と太鼓二基、神輿巡行があり、大柄川河口（浜坂漁業協同組合諸寄支所セリ市場内）に御旅所が設けられる。また、昭和三〇年代までは、四台の芸屋台が繰り出し、それぞれ地区民による歌舞伎・変屋などの芸を競った。



● 諸谷山龍満寺

龍満寺は、元天台宗の寺として創建され、慶長九年（一六〇四）曹洞宗に改宗された。「馬北（北但馬）」の鬼道場として、全国にも知られていた。文政三年（一八二〇）年伯州橋津浦直乗船頭孫七船が諸寄沖で難破した際、亡くなった水主を弔い、土葬された記録が残されているが、どこに埋葬されたか、は不明である。

● 北前船保留杭跡

諸寄港には、北前船を港内に保留するための保留施設が残っている。岩に「丸型」や「正方形」に穴を開けたものや、「めぐり型」と呼ばれているドーム型に岩を練り抜いたものなど、様々である。

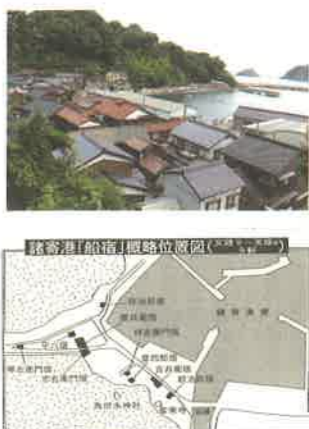


● 諸寄港の船宿・廻船問屋地区

海が荒れたときや風が無い場合に利用したのが、風待ち・潮待ち港である。多くの北前船寄港地では、廻船問屋が「船宿」も

兼ねていた。

諸寄港には、文政九年〜天保六年までに九軒の船宿があったことが知られており、その廻船問屋兼船宿は、為世永神社の下、川中町・山根町内にあったようである。また、諸寄地区の川中町・山根町・下ノ町地区にも、廻船問屋の母屋や蔵が多数残っている。



● 北前船「船絵馬」

神仏への祈願や祈願成就のお礼に奉納するのが「絵馬」で、「船」の絵を書いて奉納したのが、「船絵馬」である。

為世永神社には、五枚の船絵馬が奉納されている。現在は、彩色保護のため、諸寄地区内の八坂神社社務所祈願所内に掲げられている。



● 北前船の取引商品

「動く総合商社」と呼ばれた「北前船」。諸寄の北前船は、石州浜田外ノ浦の記録を見ると、上りの売り商品は「米」で買い商品は「鉄」。下りの買い商品は「焼物」である。



● 諸寄の屋号

諸寄には、北前船により瀬戸内や日本海沿岸など、全国の北前船寄港地から諸寄に移り住んだ人たちがいる。現在、呼ばれなくなりつつある諸寄地区内の屋号で、その家の出身地がわかる。瀬戸屋（日浦）・讃岐屋（宮本）・網干屋（藤田）・隠岐屋（田中）・山形屋（石塚）・塩飽屋・土佐屋（宮川）・因幡屋（山崎）・紀伊屋（上島）・石見屋（日浦）などの屋号がある。

● 引き札

引き札は、現在の広告・チラシや新年の曆にあたる。図柄も廻船・洋式化していく船・汽船・運送業の基地としての港・倉庫・陸上交通の発達・汽車など、明治期に近代化していく日本の社会情勢を知ることが出来る。



● 諸寄駅

古くより「雪の白浜」として知られていた諸寄港は、昭和の初め、久邇宮家が夏の避暑に來られるようになり、昭和六年（一九三〇）から仮駅舎として、その後、昭和十三年（一九五五）には一般駅に昇格した。久邇宮家の地元での受け入れをしたのが、廻船問屋「中藤田家」「東藤田家」である。